

5・23 狭山統一行動のために

2008年5月23日

部落解放同盟全国連合会中央本部

【1】5・23は狭山闘争の原点

いまから45年前の1963年5月23日は、石川一雄さんのたたかいが始まった日です。このときから今日までの45年間、石川一雄さんは一日も休むことなく「俺は殺していない」と訴え、石川一雄さんにぬれぎぬを着せた警察・検察、裁判所を糾弾してたたかいつづけています。

この石川一雄さんに着せられた「誘拐・殺人犯」の汚名を晴らすこと、裁判で無罪の判決をかちとること、これをめざして私たちは石川一雄さんとともに狭山差別裁判糾弾闘争をたたかっています。〈なにがなんでも狭山再審をかちとる〉この決意を、もう一度、あらためて今日の集会でうち固めたい、これが5・23狭山統一行動にこめた全国連の気持ちです。

そのために、まず、狭山闘争はどのようなたたかいなのかということをおもってみたいと思います。

狭山差別裁判とは、国の権力者による史上類例のない部落差別犯罪です。狭山事件の捜査失敗によって追いつめられた警察は、部落から犯人をでっちあげるという方針をたて、石川一雄さんをその生け贄にしたのです。警察は、拷問、脅迫、証拠の偽造など、あらゆる卑劣な手段を使って石川一雄さんに身に覚えのない「誘拐・殺人」の罪をなすりつけるとともに、裁判所までがぐるになって部落差別をあおりました。私たちは、部落のきょうだいにたいする、この耐え難い仕打ちを絶対に許すことはできません。

しかし、石川一雄さんは、この差別の仕打ちを打ち破って「俺は殺していない」とい

う叫びをあげ、徹底糾弾のたたかいに立ち上がりました。そして、これを聞いた全国の部落大衆が「石川命＝わが命」を合い言葉にして、「差別とたたかわないと人間として生きていけない」という自覚に燃えて差別糾弾のたたかいに立ち上がったのです。そして、この石川一雄さんの叫びは労働者階級をも揺り動かして、部落差別を撤廃し、社会を根本から変える人間解放の大きな砦を打ち立ててきました。まさに、狭山差別裁判こそ部落差別の原点であり、狭山闘争こそ部落解放運動の原点です。

【2】狭山再審をかちとろう！

狭山闘争の決着点は、裁判をやり直させ、石川一雄さんの無実を裁判所に認めさせること、＜無罪の判決をかちとること＞いがいにはありません。

無実だからこそ無罪というのは当たり前ですが、この裁判は、国の権力者が総ぐるみでやった部落差別犯罪を糾弾し、それに正義の制裁を加えるという大変なたたかいです。それゆえに、本部派のように途中で日和ってしまい、いいかげんなどころでお茶を濁そうというような人々もいますが、私たちは石川一雄さんとともに、どこまでも＜再審＞と無罪をつらぬきます。たんなる捜査や裁判の間違いではなく、石川一雄さんの無実のなかには、＜部落差別は認めない＞ということと、＜私たち部落民の人間としての尊厳＞がかかっているのです。

全国水平社は、差別した人に謝らせるために、警察ややくざ、軍隊までがでてきて妨害しても、部落大衆が力をあわせてその妨害を打ち砕いて、糾弾をつらぬきました。これこそが差別糾弾の魂です。そして、このたたかいの魂こそが、差別が当たり前というような世の中をひっくり返して部落解放運動の大きな流れをつくってきたのです。

いま、狭山事件の再審を担当しているのは、東京高等裁判所の門野裁判長です。極悪の裁判官です。3年前に名古屋地裁で、「名張毒ぶどう酒事件」という裁判の再審が決

まりました。確定判決で認定された毒薬と、実際に使われた毒薬とがまったく違うもの
だったという決定的な新証拠が発見されたのです。ところが、当時、名古屋高裁にい
た門野が、それを強引に取り消したのです。門野は、これを「手柄」に東京高裁に栄転、
狭山事件の再審請求を棄却するために狭山の担当に抜擢されたのです。

実際に、門野裁判長に代わってから、全国連の要請行動にたいする東京高裁の態度
が一変しました。裁判所は、要請行動にたいして「20名、30分」の枠を強制し、
まだ話をしている最中でも「30分になりました」と席を立っていく、答弁を求めて
もいっさい答えないという有様です。まるで聞く耳をもたないという態度です。

しかし、このような高圧的な態度は、動揺のあらわれです。ちょっとでも事実調べを
したら、たちまちデッチあげが暴露され、石川一雄さんの無実が満天下に明らかになっ
てしまうということを百も承知しているからこそ、このようなかたくなな態度をとっ
ているのです。私たちは、門野などに負けるわけにはいきません。私たちのたたかい
によって門野をぶっ飛ばして、再審の門をこじあげようではありませんか。

<証拠開示>を求めるたたかいこそ、その最大の切り口です。検察が隠し持ってい
る証拠のなかには、石川一雄さんの無実と警察によるデッチあげを暴き出す新証拠が
たくさんあります。狭山現地にも、差別捜査によって苦しめられた生き証人とも言え
る部落大衆の体験と怒りが埋もれています。これを全国連の手で掘り起こし、隠され
た真実を明らかにするのです。

**【3】10・26 中央闘争に向け、国家権力にたいする大衆的な糾弾闘争を地域か
らつくりあげよう！**

そのためには、<裁判所、検察にたいするたたかい>（要請行動）が重要な柱とな
ります。あらためて、全国の同盟員の力を結集して、この要請行動の恒常的な体制
を作り上げていこうではありませんか。

しかし、狭山再審のたたかいは、要請行動とともに、部落大衆や労働者が生活する地域

がいと う しよく ば いか ほ お ちから
や街頭、職場において怒りを掘り起こし、それをひとつの力にしていくことこそ、も
じゅうよう はしら ようせいこうどう どだい ちから いったい こっ かけんりよく
っとも重要な柱です。要請行動は、これを土台とし、この力と一体となって国家権力
ちよくせつせま ちから
に直接迫る力となります。

なら 一昨年 いらいの 部落解放運動 つぶしの 反動の なかで いったんは つぶされた
さ やまじゅうだんとうこう ぜんこくれん なかま せんとう ちいき こ ほごしゃ
「狭山集団登校」を、全国連の仲間たちが先頭になって地域の子もたちや保護者と
てっぺいてき はな あ とお さくねん がつ みごと ふつかつ こ ほごしゃ
の徹底的な話し合いを通して、昨年の10月に見事に復活させました。子どもと保護者、
ぼうえい あつ ぜんこくれん なかま ちいき ひとひと きょういくろうどうしゃ きいろ けい
防衛のために集まった全国連の仲間や地域の人々、教育労働者が黄色のゼッケンと荊
かんき さやま どうこう ぜんこうしゅうかい かんてつ
冠旗で、狭山のシュプレヒコールをあげながらデモで登校、全校集会を貫徹したので
す。

しゅうだんとうこう はなはな にちじょうてき
「集団登校」というような「華々しい」たたかいでなくても、日常的なピラマキ、
しよめいうんどう しゅうかい じみち ちいき かつどう つく あ さやまさ べつさいばん
署名運動、集会などの地道な地域での活動をうねりのように作り上げ、狭山差別裁判
きゅうだん たいしゅうてき いし も あ さいしん おこな こえ ぜんこくてき おお こえ
糾弾の大衆的な意志を盛り上げ、＜再審を行え＞という声を全国的な大きな声にし
ていこうではありませんか。ぜんこくれんちゅうおうほん ぶほんねん どういつこうどう さい
全国連中央本部は、本年の5・23統一行動に際して、
このことを、あらためてすべての同盟員のみなさんに心から訴えたいと思います。

そして、きたる 10月26日、10・31 とうきょうこうさい てら おはんけつ ねんめ
東京高裁・寺尾判決から34年目にあたるこの日、ぜんこく しゅと とうきょう けっしゅう とうきょうこうさい ほうい きゅうだん さやまちゅうおうとうそう
全国から首都・東京に結集して、東京高裁を包囲、糾弾する狭山中央闘争
をたたかいとろうではありませんか。

【4】 はんたい ふくだないかくだとう ぜんせかい ろうどうしゃかいきゅう じんみん れんたい
サミット反対・福田内閣打倒へ、全世界の労働者階級・人民と連帯してたたか
おう！

いまひとつ 訴えたいことがあります。それは、かいけん ろうどうしゃ じんみん てっぺいてき
いまひとつ訴えたいことがあります。それは、改憲と労働者・人民からの徹底的な
しゅうだつ おすす ふくだせいけん だとう ろうどうしゃかいきゅう じんみん
収奪を推し進める福田政権を打倒するために、労働者階級・人民とともにたたかいに
たちあがろうということです。

すでにご承知のように、7月に「洞爺湖サミット」(せんしんこくしゅのうかいぎ ひら
先進国首脳会議)が開かれます。

サミットは、^{ていこくしゅぎ}帝国主義の^{ごうとう}強盗どもの^{しゅのう}首脳（^{おやぶん}親分）^{あつ}たちが^{せかい}集まって、^{ぶんかつしはい}世界の分割支配をたくらみ、その^わ分け前を^{まえ}奪い合う^{うば}場です。とくに^あこんかいのサミットは、^{しんりやくせんそう}イラク侵略戦争の^{どろぬまか}泥沼化のなかで、この^{せんそう}戦争を^{きたちようせん}イランや、^{ちゆうごく}北朝鮮、さらには^{かくだい}中国にまで拡大していくことを^{いと}意図して^{おこな}行われるものです。メインテーマとされている「^{たいさく}テロ対策」「^{たいりょうは}大量破壊兵器の^{ふかくさん}不拡散」とは、^{ぜんせかい}全世界に^{せんそう}戦争を^{かくだい}拡大し、^{しげん}資源と^{とみ}富を^{ぐんじりよく}軍事力によって^{どくせん}独占しようとする^{ていこくしゅぎ}帝国主義者の^{ことば}言葉に^{ほか}他なりません。

そして、そのために、^{にん}2万人の^{けいさつかん}警察官を^{どういん}動員、^{じえいたい}自衛隊までが「^{たいさくさくせんしゅつどうたいせい}テロ対策作戦出動態勢」と^{しょう}称して^{はいび}配備されると^い言われています。^{こうべ}神戸、^{おおさか}大阪や^{きやうと}京都も^{かんきやうしやう}環境相、^{ざいしやうかいぎ}財相会議や^{がいしやうかいぎ}外相会議の^{かいじやう}会場となることから、まさに^{にほんぜんこく}日本全国が^{かいげんたいせい}戒厳体制下におかれようとしているのです。

^{さくねん}昨年（^{ろどうしや}ハイリゲンダム）の^{せんとう}ドイツ・サミットでは、^{ぜんせ}ドイツの労働者を^{せんとう}先頭に^{ぜんせ}した全世界人民の^{かいじんみん}激しい^{はげ}抗議闘争が^{こうぎとうそう}たたきつけられました。この^{とうやこ}洞爺湖サミットに^{ぜん}たいしても全世界の^{せんせかい}労働者の^い怒りの^{こえ}声^{しゅうちゆう}が^{ふんさい}集中し、この^{ぜんせかいじんみん}粉砕が全世界人民の^あ合い^{ことば}言葉となっています。

いまや、^{ていこくしゅぎ}帝国主義は^{せんとう}アメリカを^{もんだい}先頭に、「^{しやうてん}サブプライム・ローン問題」を^{きんゆう}焦点にした^{きんゆう}金融破綻に^{ぜんせかい}あえいでいます。この^{ぜんせかい}つけを全世界に^{ぜんせかい}まきちらし、全世界を^{せんそう}戦争と^{ひんこん}貧困に^たたたきこもうとするサミットは、^{せんせかい}世界の^{ろうどうしや}労働者・^{じんみん}人民の^い怒りの^め的となるのは^まあまりに^{とうぜん}当然です。サミットは、^{ぜんせかい}全世界の^{ろうどうしや}労働者・^{じんみん}人民が^{ていこくしゅぎ}ひとつになって^{せんせかい}帝国主義による世界の^{しはい}支配を^う打ち^{たお}倒す^たたか^ばいの^ば場なのです。

いまこそ、^{ふくだせいけん}福田政権に^と止めを^きさすときが^{わたし}来ています。いったい、どこまで^{わたし}私たちが^{しぼ}ら^と搾り^き取^すたら^{こうきこうれいしや}気が^{いりようせいど}済むのか。後期^{じっし}高齢者^{ぜいふかつ}医療制度の^{じよ}実施や^{くち}ガソリン^{しょうひぜい}税復活などの^{おおはばぞうぜい}口、^{ぜいせいはいかく}消費税の^{ふくだせいけん}大幅増税などの「^{ふくだせいけん}税制改革」こそが^{ふくだせいけん}福田政権の^{ねらい}ねらいです。しかも、その^{うら}裏で、^{じんみんとう}自民党は^{がつ}4月に^は＜^{へいこうきゆうほうせいてい}派兵恒久法制定＞に^む向けての^{はつかいごう}プロジェクトチームの^{はつかいごう}初会合を^{ひら}開き、^{こんこっかい}今国会での^{ほうあんていしゅつ}法案提出を^{かいいん}もくろんで^{せんそう}います。まさに、＜^{せいかつ}改憲（戦争）と^{はい}生活破壊＞、これこそが^{ふくだせいけん}福田政権の^{ほんしやう}本性に^{ほか}他なりません。

ぜんこくれん はんたい ふくだせいけん だとう ぜん せ かい ろうどうしゃ じんみん
全国連は、サミット反対・福田政権打倒へ、全世界の労働者・人民とともにたたかい
ぬきたいと思ひます。7月5日北海道現地闘争にも合流したいと思ひます。そして、
ひろしま とうめん ふくだせいけん だとう さいだい けっしゅうじく ぜんりょく と
8・6広島を当面する福田政権打倒のたたかひの最大の結集軸として全力をあげて取
り組もう！

【5】革共同による狭山闘争破壊策動を絶対に許さない

かくきょうどう さやまとうそう はかいさくどう ぜったい ゆる
革共同は、5・23狭山闘争に分裂を持ち込みました。「東日本解放共闘」を詐称
して、「5・23狭山集会」と当日の要請行動を行なうと発表しています。

ひがしにほんかいほうきょうどう いばらきけんれん ながのけんれん ぜんこくれん いっぽう しゅじく
「東日本解放共闘」は、茨城県連や長野県連をはじめ全国連を一方の主軸として
つくられ運営されてきた組織です。ところが、茨城県連や長野県連には何の相談もな
く、勝手に「解放共闘」を名乗って、全国連の5・23狭山統一行動への部落大衆や
ろうどうしゃ じんみん けっしゅう ぼうがい ぶんれつこうどう ぜんこくれん
労働者・人民の結集を妨害するために分裂行動をよびかけているのです。全国連はこ
のような分裂行動を断じて認めません。

かれ ひろしま さべつじけん ひら なお ぜんこくれん せいぎ きゅうだん
彼らは広島差別事件を開き直るだけでなく、全国連による正義の糾弾からのがれる
ために全国連に分裂を持ち込み、ついには狭山闘争にまで分裂を持ち込もうとしていま
す。いまや、革共同の差別者集団としての本性が完全に明らかになりました。

ちゅうしこく しんそうほうこくしゅうかい ささ かいけっせいしゅうかい せいこう かくきょうどう
6・1中四国での真相報告集会（支える会結成集会）を成功させ、革共同にたい
きゅうだんとうそう じんけい あつとうてき ぼうがい
する糾弾闘争の陣形を圧倒的に作りあげよう！あらゆる妨害をはねのけ、10・2
6狭山中央闘争の爆発をかちとろう！